

御製 五首

平成十一年

昭和天皇十年式年祭を終へて

父君の思出^{おもひいで}おほき大相撲年の始めの土俵に見入る

ルクセンブルグ大公を迎へて

大公と春の山梨たづぬれば間近に白き富士そびえ立つ

結婚四十周年に当たりて

四十年^{よそとせ}をともに過しし我が妹^{いも}とあゆむ朝^{あした}にかいつぶり鳴く

奥尻島

六年^{むっとせ}を経てたづねゆく災害の島みどりして近づききたる

即位より十年たちて

日の暮れし広場につどふ人びとと祝ひの調べともに聞き入る

第五十回全国植樹祭

静岡県

西天城にしあまぎかうげん高原の空晴れわたりひめしやらの苗人びとと植う

第十九回全国豊かな海づくり大会

福島県

育てられしひらめの稚魚を人びとと風をさまりし海に放てり

第五十四回国民体育大会秋季大会

熊本県

競技場にあまた人びと幼きも入りきて見する技はたのしき

皇后陛下御歌 三首

平成十一年

昭和天皇十年祭

かの日より十年^{ととせ}を経たる陵^{みささぎ}に茂りきたりし木木をかなしむ

長崎原爆忌

かなかなの鳴くこの夕べ浦上の万灯^{まんどう}すでに点^{とも}らむころか

結婚四十年を迎えて

遠白^{とほしろ}き神代の時に入ることく伊勢参道を君とゆきし日